

調査事業の概要

- ・既存のクリーンエネルギーの有効活用が不十分。
- ・観光資源(平和祈念公園、平和の礎等)に恵まれながら、宿泊や体験を伴わない通過型の観光地となっている。
- ・太陽光および風力発電を導入済みだが、市民や観光客への環境教育・普及啓発等のPR効果が十分ではない
- ・一次産品・加工品等の競争力ある高付加価値化に向けた取組みが不十分。

調査事業の概要

現在、糸満市内の既存の施設で生産されるクリーンエネルギーは、その量と価値を十分に活用できていないという認識がある。このため、これらのエネルギーの量的、質的な活用を推進させる必要がある。

あわせて、それらエネルギーの需要開発を「平和」「環境」「観光」「農水産」といった地域資源とそれぞれ、融合させていくことで、環境的付加価値のある平和施策の展開といった糸満市の特色を活かした新たな価値創造による地域活性化と低炭素型地域社会の実現を目指していくためのプランニング策定とプラン実現のための方策を検討することを調査目的とする。

未活用のクリーンエネルギーを、通過観光客を新たに呼び込むこと、地元産品の環境付加価値の増強に利用することにより、地域の産業振興、活性化、低炭素化につなげるため以下の調査検討を行った。

1. クリーンエネルギー活用による観光魅力度(付加価値)向上の検討

- ①既存施設における未活用エネルギーの調査
- ②県内・市内観光客の行動パターンの把握
- ③観光資源の高付加価値化の検討
- ④(急速)充電スタンド、レンタサイクル等最適配置の検討
- ⑤充電スタンドの二次電池の有効活用の検討

2. クリーンエネルギー活用による環境付加価値商品の開発調査

- ①一次産品とその加工食品へのカーボンフットプリントとフードマイレージ導入検討
- ②伝統工芸品等の二次産品へのカーボンフットプリント導入検討
- ③観光行動のカーボンオフセット導入検討
- ④糸満ECOブランドの確立とPR戦略の検討

実現を目指していく地域のイメージ

- ◆地域資源の魅力は高いが、それぞれが個別に活動を展開している
- ◆既存のクリーンエネルギーの活用が不十分である。

地域資源相互の連携強化・融合・一体化

- I クリーンエネルギーを活用したカーボンオフセット型の観光の確立
- II カーボンフットプリント等を取り入れた農水産品・伝統工芸品等の創出
- III 上記取組みを通じた市全体の産業を取り込む「糸満ECOブランド」の確立

新たな価値創造

糸満市の豊かな地域資源が有機的に結び付き、人々の絆をさらに強固にし、ネットワークの相乗効果によって環境調和型の地域の活性・産業振興・低炭素かにつながる。

対応策の提示

<これまでのノウハウ、対応策>

- 糸満市観光農園における風力発電の段階的導入と自家消費と余剰電力の売電等の電力システムの運営・維持管理。
- 上記の他に市役所庁舎の太陽光発電の導入・運営や、「新エネ百選」、「次世代エネルギーパーク」の認定を受け、市内外に環境意識・啓発の施策を進めてきた。

<調査事業によりとりまとめたノウハウ、対応策>

- 市内事業者を例にとり、加工食品のLCA評価を行ったのを始め、観光行動等のカーボンオフセット方法などを定量的に評価した。
- 市民共同発電所、環境基金、SCS等の仕組みを利用すれば、事業性が確保でき、初期投資の国庫補助程度で、自立したプロジェクトとして継続が可能なこと。
- 糸満市版再生可能エネルギーを核としたスマート・コミュニティを実現(実証試験～本格稼働)の具体施策を推進する。

<今回の調査により得られた新たな課題>

- 電気事業法の制約(電力売買の自由化など)があること。
- 沖縄電力株式会社の設備容量との関係上、地域的に系統連系の制約があること。